

自分自身

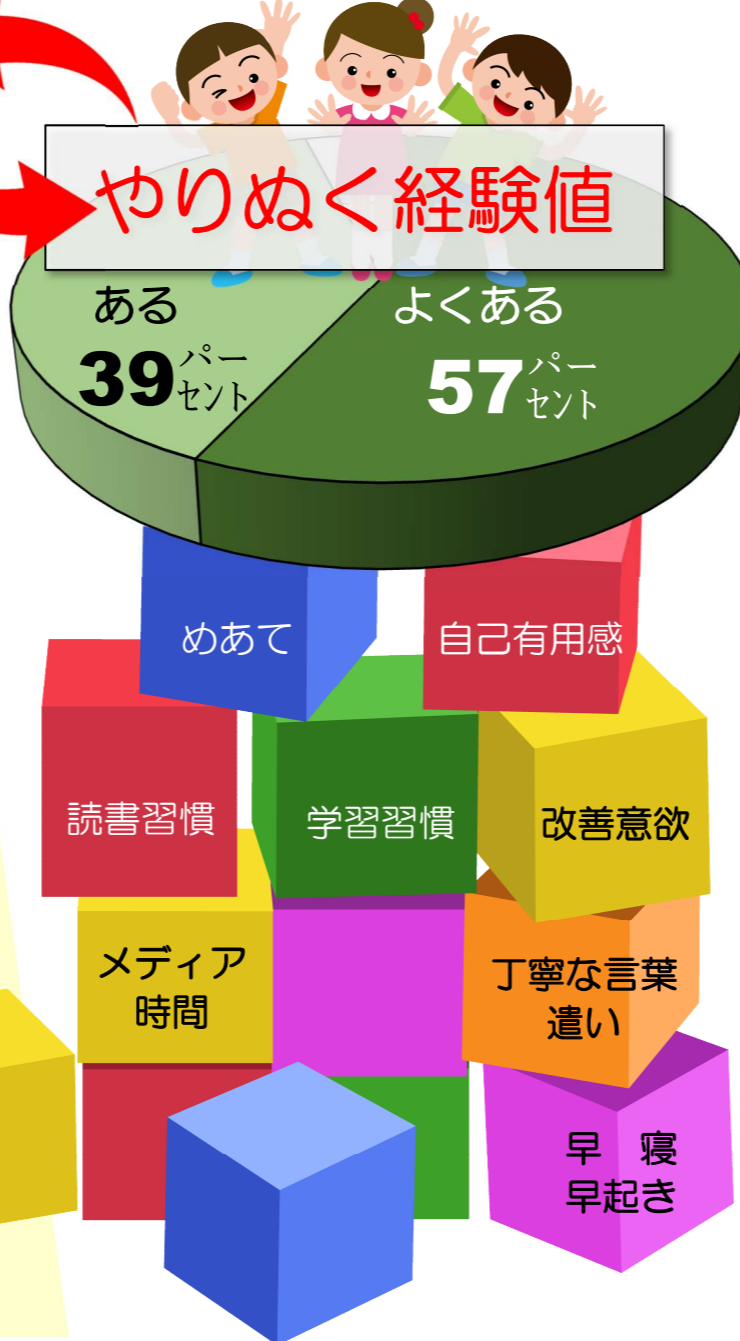
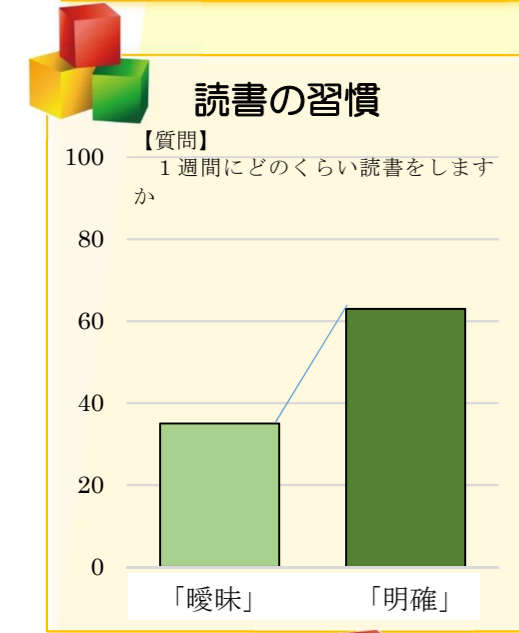
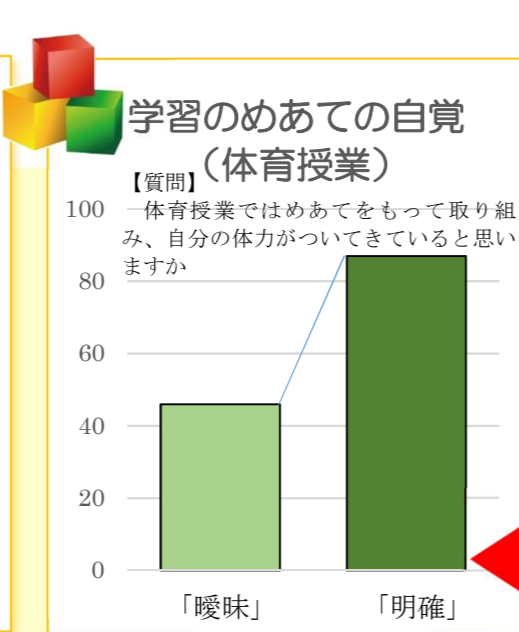
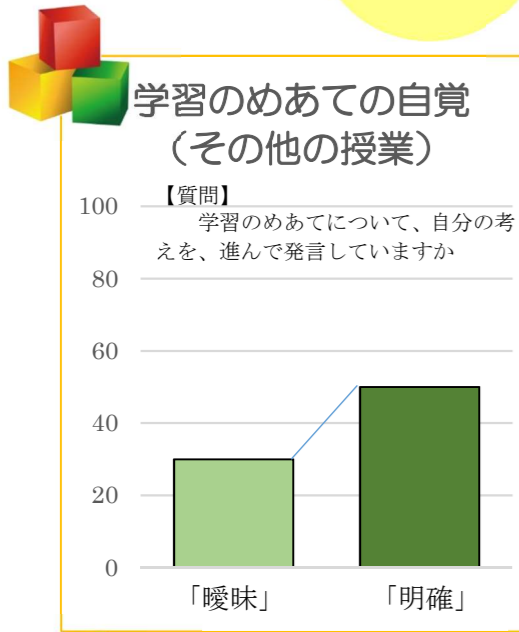
「やりぬく経験値」を増やす『環境づくり』を～学校評価児童アンケートから

7月の第1週目に、全校で1学期を振り返っての児童アンケートを実施しました。個々のアンケート項目の結果を受けての2学期以降の具体的な取組は、次回の学校だよりでお知らせします。今回は、夏季休業期間に、是非ともご家庭でも取り組んで頂きたい特徴的な結果に焦点付けた提案をしたいと思います。

まず、紙面中央の円グラフをご覧ください。須田小の子供の96%が、「最後まで諦めずに取り組んだ経験」をしている点です。ただ気になる点は、「どちらかと言えばある」という「曖昧な回答」(以下、曖昧)をしている子供が約4割もいることです。「よくある」という「明確な回答」(以下、明確)をしている子供と比較してみると、他の質問項目にも、**大きな違い**が見えてきます。

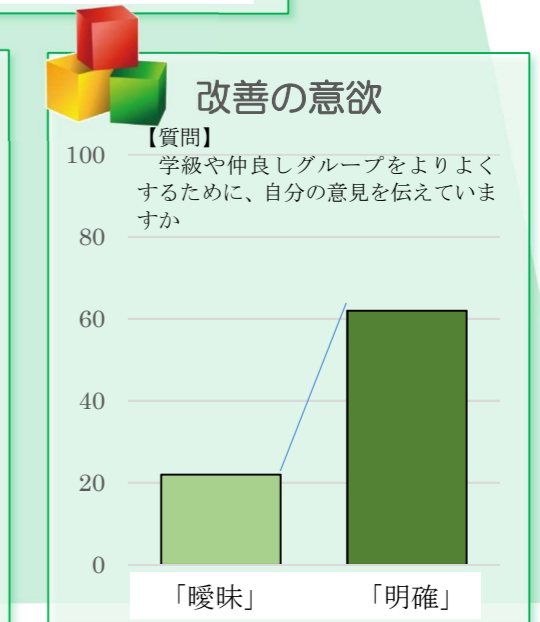
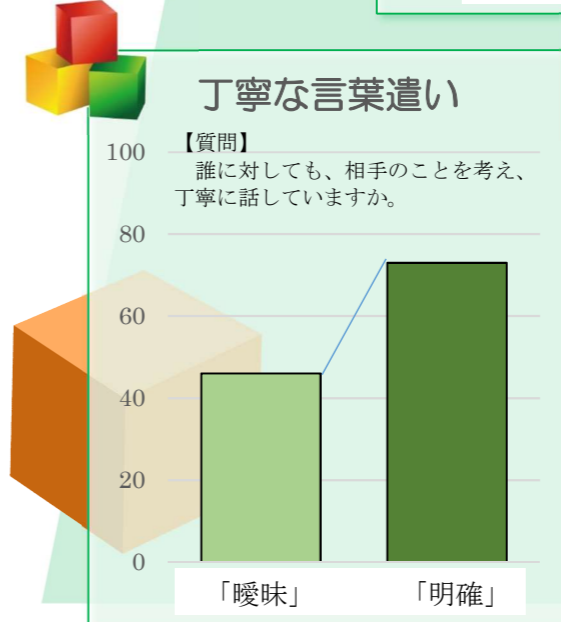
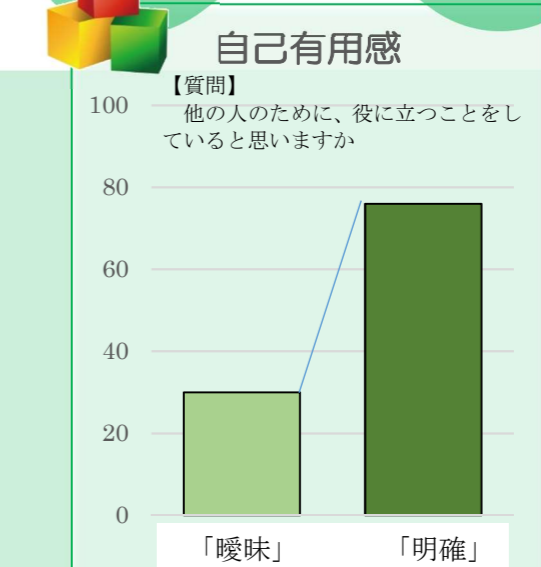
そこで、左右の棒グラフをご覧ください。「めあてをもって学習に取り組む」「家庭での生活習慣」等、「自分自身」に関わることや、「言葉遣い」「集団をよりよく改善していく意欲」「自己有用感」等、「他との関わり」ことについての回答が、「曖昧」と「明確」の両方で大きく違っています。明らかに、「**明確**」の方が、**全ての項目で、より肯定的に評価**しています。

ここで注意しなければならないのは、大人のレベルで解釈することです。つまり、「やりぬく力があるから、何でもできている」と簡単に結論付けることはできません。**子供は発達途上にあります**。「この子は、やりぬく力がある。」と決めつけることで思考停止せず、寧ろ逆に考え指導に生かしていきたいです。「1時間1時間の学習のめあてをもち取り組む」「毎日本に触れる」「丁寧な言葉遣いをする」等、**日々の具体的な体験の積み重ねをする『環境作り』**に焦点付けた改善を進めます。例えば、大人も、「時間を意識する・本を近くに置く・丁寧な言葉遣いをする」などから始めて、是非とも、子供の「やりぬく経験値」を増やしていきたいと思ひます。私たち教職員も、学校での『環境づくり』の具体策に取り組んでいきます。



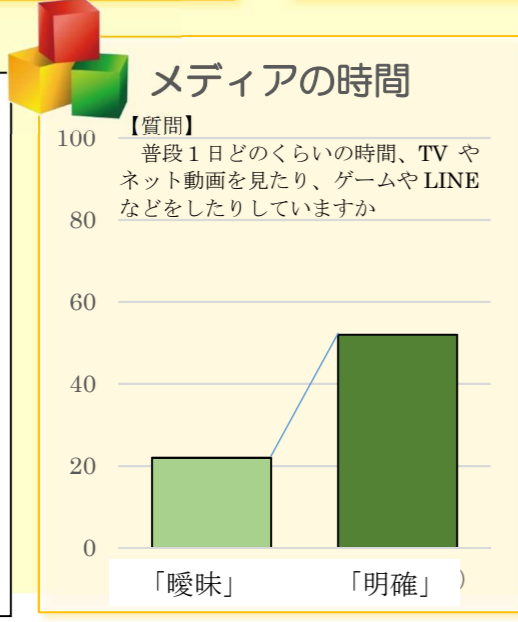
【質問】 取り組んだことにはあっても、最後まで諦めそうになっても、最後まで取り組んだことはありませんか。

関わり



時間編集力を!

メディア(TV,ネット等)に関わる時間が少ない(1時間未満)子供たちは、家庭学習や読書の習慣化が見られる。また、就寝時刻もしっかり守られている。反対に考えると、時間の使い方(時間編集力)と、生活習慣等が関係し合い好循環している。



子供たちは、日々の具体的な体験の積み重ねで、自分像を作り上げている。